

各位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
代表者 代表取締役社長 児玉 正蔵
(コード番号 6112)
問合せ先責任者 取締役執行役員経理部長 田中 教司
(TEL 027-343-1511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成30年10月5日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成30年11月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年12月1日～平成30年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,000	30	40	30	30.02
今回修正予想(B)	2,235	90	113	100	101.06
増減額(B-A)	235	60	73	70	
増減率(%)	11.8	200.0	182.5	233.3	
(ご参考)前期実績 (平成29年11月期)	1,714	△122	△105	△98	△9.89

修正の理由

当社売上高につきましては、当社の主製品である油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節的変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが、当社事業の特性であります。なお、一部請負工事物件につきましては、工事進行基準を適用して売上処理を行っております。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、当118期通期における売上高につきましては、大型受注物件2台を始め、翌期納品予定物件の工事進行度合いが予想以上に進捗したことで、前年同期実績(17億14百万円)及び前回予想数値20億円を上回る22億35百万円の見込みであります。

利益面につきましては、生産効率を意識した原価への取組みに努めており、更には、損益分岐点を上回る売上確保により、人件費等の固定費増を吸収し、当期純利益は、前回予想数値30百万円を大きく上回る1億円の計上となる見込みであります。

受注状況につきましては、当第2四半期累計期間に確保した大型受注物件(鍛造業界向け物件2台18億88百万円及び大型プレス20億円)が大きく貢献し、当期末では、受注高は、前年同期(16億13百万円)から51億57百万円へと飛躍的に増加し、また受注残高におきましても、前年同期末(10億43百万円)に比べ39億65百万円の大台を確保できております。現在、一部企業の受注成約足踏み傾向等厳しい受注環境が見られますが、引き続き上昇している高額な引き合い物件を軸に成約に向け努力し、一層の受注増加・売上増加に期待をかけているところでございます。

* 上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以上